

— 織物BARとは？



美術家・彫刻家の久村卓が主宰するワークショップ。カウンターで好きな毛糸や布をオーダーし、手のひらサイズの織物をつくる。手作業をすることで、周りを見たり、話をしたり、様々なコミュニケーションが誘発される場が生まれる。府中では市内で不要になった素材を集め、創造活動に活用する「ラッコルタ-創造素材ラボ-」と連携し、閉業した洋裁教室や現役のアパレルブランドから提供された布を使った。



久村卓(美術家・彫刻家)

東京生まれ。多摩美術大学彫刻学科卒業。ハンドメイドやDIYなど、美術で周縁とされる素材や技法を選び、“台座的”なものをつくることで、ようやく制度的に成立する作品を制作する。国内外での展覧会多数。近年はワークショップやコレクティブでの活動も行う。



東京都・府中市芸術文化連携事業

主催：東京都、府中市、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京
企画協力：特定非営利活動法人アーティスト・コレクティブ・フチュウ

東京文化戦略 2030 の「誰もが芸術文化に身近に触れられる環境を整え、人々の幸せに寄与する～人々のウェルビーイングの実現に貢献する」ため、生活の中での芸術文化活動が増えること、行政の様々な場面で芸術文化の活用を目指し、東京都が公益財団法人東京都歴史文化財団と共に、区市町村単独では取り組めない試行的な取り組みの支援を行っている。

連携事業をやって、みた

「織物 BAR in FUCHU」ができるまで
2026年3月発行

編集：大川直志、佐藤李青(アーツカウンシル東京)

ロゴデザイン：杉浦一志

冊子デザイン・写真：高橋真美

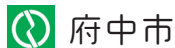
材料提供：ラッコルタ-創造素材ラボ-より | 布：サトー洋裁教室、(株)F.F.P. | ダンボール板：多摩岡産業(株)

グラフィックレコーディング：清水淳子

発行：公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京



連携事業の詳細はこちらをご覧ください



ARTS COUNCIL TOKYO

